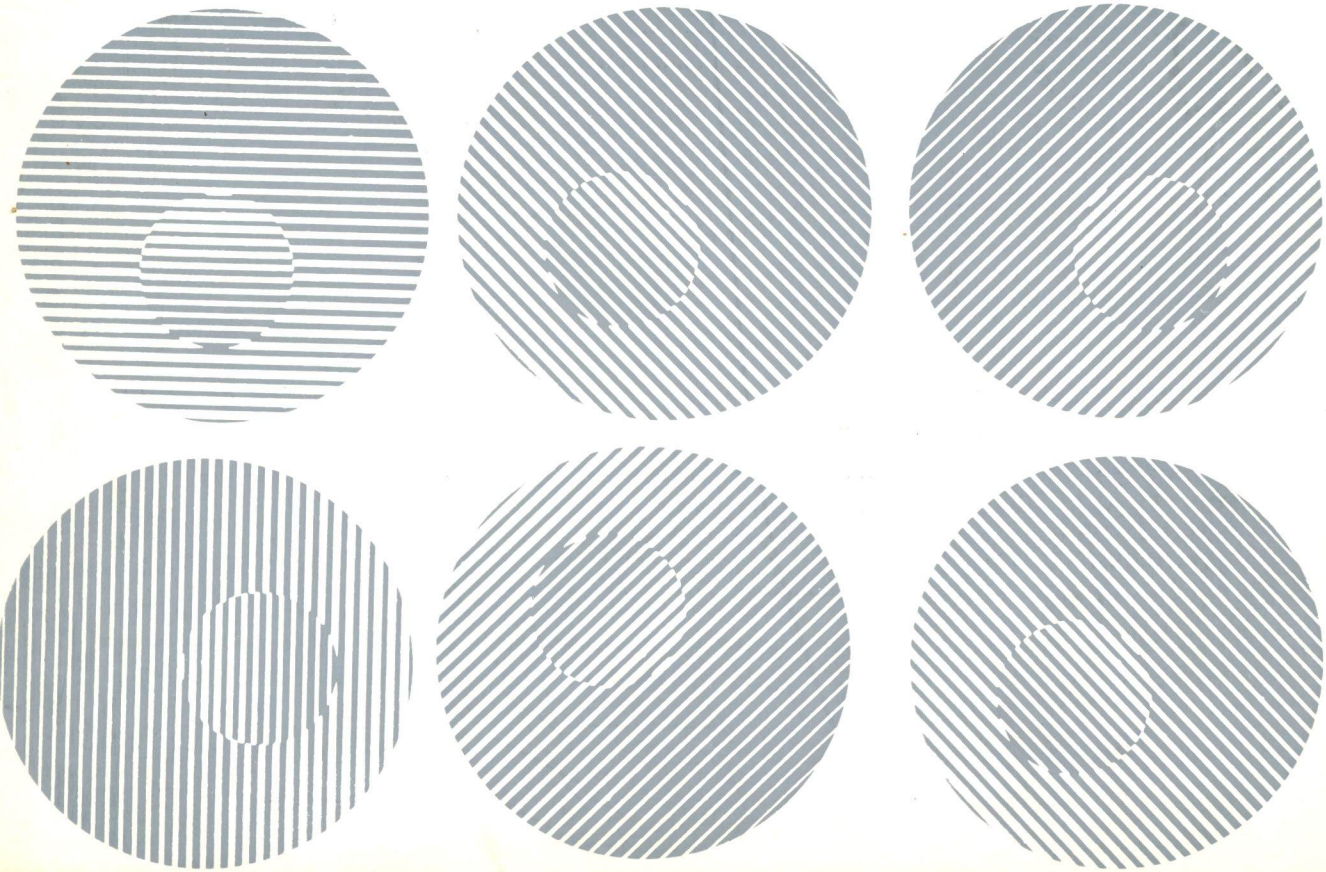
THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA CONCERT

SUMMER
'69 8/4



THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA SUMMER CONCERT

指　揮　　芥川也寸志
Conductor　YASUSHI AKUTAGAWA

合　唱　　東京混声合唱団
Chorus　TOKYO PHILHARMONIC CHORUS

曲　　目

I　喜歌劇「こうもり」序曲　作品 56 ……J. シュトラウス
"Die Fledermaus" Ouvertüre Op. 56 ……J. Strauss

II　円舞曲「ウィンの森の物語」　作品 325 ……J. シュトラウス
Geschichte aus dem Wienerwald——Walzer Op. 325 ……J. Strauss

III　舞踊組曲「眠りの森の美女」から　作品 66a′ ……P. チャイコフスキー
Ballet Music「Sleeping Beauty」 Op. 66a′ ……P. Tschaikowsky

1　導入部——リラの精
Introduction. La fée des Lilas

2　ワルツ
Valse

3　アダージォ　パ・ダクシォン
Adagio. Pas d'action

IV　組曲「ミシシッピ」 ……F. グロフェ
Suite for Orch.「Mississippi」 ……Ferde Grofé

1　河の父
Father of Waters

2　ハックルベリ・フィン
Huckleberry Finn

3　想い出のルイジアナ
Old Creole Days

4　マルディ・グラ
Mardi Gras

V　南太平洋 ……リチャード・ロジャース
South Pacific ……Richard Rodgers

VI　カン・カン ……コール・ポーター
Can Can ……Cole Porter

VII　マイ・フェア・レディ ……フレデリック・レーウェ
My Fair Lady ……Frederick. Loewe

1969年8月4日（月）午後7時　東京文化会館大ホール

—— 常任指揮者 ——

芥 川 也 寸 志

Yasushi Akutagawa



「労音アンサブル」とよばれていた「新響」との出会いは，去る1955年11月のこと，以来14年間のつきあいである。おそらく，この期間中，欠席の最も少ないのは指揮者であろう。もっとも，当時からの団員は数名しかいないので，比較するにも基準が見あたらないことになる。

ところで，口ぐせは「日本のすべての町にオーケストラを，そして合唱団を」だ。とにかく，音楽する人をひとりでも多くしたいと心から願っている。以前，新響が東京労音と関係があったころ，第1（新響），第2，第3オーケストラ，そして，ブラスオーケストラまで創立するための源泉となった。

彼の手駒としている「新響」，「鯨」の二つの演奏団体は，その理念——いわゆる音楽運動——を達成するためのベースだと考えてよい。そのため，新響の隔月定期演奏会実施，新響の法人化実現をめざして，日夜，奔走している。

昭和24年，東京音楽学校研究科作曲部を卒業，作品は，＜交響三章＞など多数。文豪龍之介の3男，44歳。



新交響楽協会　新　交　響　楽　団

▷労音アンサンブル時代（1955年）

1955年2月，東京労音会員の音楽愛好者，約40名によって，新響の前身“労音アンサンブル”はスタートした。編成はバラバラながらも，この楽団は労音会員に歓迎され，各地の文化祭などに出演するようになった。ところで，この年の11月，芥川氏が練習場へ姿を現わした。氏と新響とのつながりは，ここにスタートする。

1956年1月，小編成のアンサンブルから本格的なシンフォニーオーケストラへ脱皮することを計画，名称を“新交響楽団”と改めた。そして，その後，しばらくの間，演奏活動を中止し，芥川氏のきびしいトレーニングを受けることになった。

第1回定期――1957年11月21日，日本青年館にて。「運命」ほか。

第2回定期――1958年11月12日，日本青年館で。モーツァルトの交響曲41番ほか。1959年，はじめて会津若松へ演奏旅行に出かけている。

▷労音例会出演，第2オーケストラの誕生など

1960年から地方労音の出演依頼に応ずることとなり，上田，熊谷の両労音へ出かけた。

ところで，第2回定期の前後からメンバーの人員，技術レベルなどに差がめだつようになり，オーケストラを二つに分ける案が芥川氏から提案された。結局，1年がかりで実現することになるが，これは同様な波及効果となって現われ，第3オーケストラの誕生，ブラスオーケストラの編成などへと発展する。

東京労音に出演――1962年4月。

第9交響曲演奏――1963年12月，東京労音例会で第9を5回演奏。

北海道演奏旅行――1964年4月。

四国演奏旅行――1965年4月。

▷新交響楽協会設立，労音から分離

新響はそのときまで東京労音のバックアップで運営されてきたが，労音側と意見が対立。ついに，1966年3月，新交響楽協会を設立して，自主独立の道を歩むことになった。

その後，1966年9～12月にわたるベートーヴェン交響曲全曲の連続演奏会を行ない，1967年9月～10月にかけてはソ連演奏旅行を実施し，アマチュアオーケトラとしては前代未聞の壮挙をなしとげた。

1968年は，比較的，地味な活動ではあったが，東響との合同演奏会，初の客演指揮者――近衛秀麿氏をむかえてのモーツァルト特集演奏会を開くなど，着実に発展し，実力を蓄わえた。

1969年は，すでに港区教育委員会など3回の依頼演奏会に出演した他東響と合同で第9の第4楽章をTBSで録画している。4月には，第18回定期演奏会を開いた。10，11月にかけては九州，沖縄への演奏旅行が予定されている。

社会人，学生からなるユニークなこのシンフォニーオーケストラは，過去の実績を土台にし，未知の分野に挑もうとしているのだ。



東京混声合唱団

昭和31年，このグループはその年の東京芸術大学声楽科卒業生24人により創設され，プロ合唱団として発足した。創立以来，はげしい練習の積み重ねと，団員相互の人間的な深いつながりによって，この合唱団特有の美しいハーモニーを作り出し，オペラ，オラトリオをはじめとし，合唱名曲，民謡，黒人霊歌から，ポピュラーソングにいたるまで，幅広いレパートリーに，高度の技術と内容を発揮している。

この合唱団による邦人依嘱作品は，数多くの名作を世に送り出したが，なかでも特筆すべきは，昭和33年の依嘱作品である，間宮芳生作曲「混声合唱のためのコンポジションⅠ」，林光作曲「原爆小景によるカンタータ」の2曲であろう。この曲は従来から考えられていた合唱音楽のイメージをまったく打ち破っただけでなく，この合唱団の負わねばならない使命を，未来にはっきり示したのであった。

日本の音楽をいかに表現するかという問題と，音に言葉がついている合唱音楽の持つ使命の二つの命題をこの2曲は示し，現在にいたるまで，この合唱団の基本的な演奏活動の主体を形成した。

また，つづいて翌昭和34年に企画された「合唱の歴史連続演奏会」は，当時の合唱団の実力とか，合唱団を取りまく情勢のために多少，教養主義的な面があったにせよ，そこで行なわれた膨大なレパートリーと作品紹介の意義は，プロ合唱団としての声価を決定づけるものとして，高く評価された。

現在，この合唱団は，三つの基本的な企画によって演奏活動をしている。それは，第二次の合唱の歴史シリーズであり，J.バッハ，パレストリーナ，コダーイ，モンテヴェルディ，モーツァルト，ブラームスと，昭和37年から続けている大作曲家シリーズであり，そして邦人作曲家シリーズである。

創立以来10年をへて，アカデミックな路線によって地道に努力を続ける姿は，わが国に合唱音楽を定着させる基礎的な土台を固めているといえよう。

現在，この合唱団は常任指揮者に岩城宏之，指揮者に岩本昭嘉，田中信昭を擁して，彼らの強力な指導のもとに，わが国でも唯一のシンフォニックな合唱団として，ますますその声価を高めている。

曲目解説

◇
J. シュトラウス
◇



――― 第1部　クラシック名曲集 ―――

同じクラシックの名曲でも，バッハやベートーヴェンでは，なんとなく紋付はかまに威儀をただす感じとなります。ところが，ヨハン・シュトラウスとか，チャイコフスキーとなると，同じクラシック音楽でもずっと肩がこらなくなるのは妙ですね。

第1部は，まず音楽の都で「ウインナワルツの王様」と称された，ヨハン・シュトラウスのオペレッタ序曲およびワルツを，それぞれ1曲ずつ演奏します。次に，おなじみのチャイコフスキーが作ったバレー組曲「眠りの森の美女」抜粋をお聴きください。

そして，第1部の最後は，現代アメリカで最も有名な作曲家であるグロフェが，1925年に作った組曲「ミシシッピ」です。

以下，簡単に各曲をご紹介いたしましょう。

◆喜歌劇「こうもり序曲」……J. シュトラウス

ヨハン・シュトラウス（1825～1899年）の作品は約500曲といわれ，大部分はワルツですが，「こうもり」，「ジプシー男爵」など，喜歌劇作品も19曲あります。

「こうもり」は全3幕からなる喜歌劇――いわゆるオペレッタで，1874年，ウィーンで初演されました。

話の内容は，他愛のないものですが，一応，紹介しておきましょう。

オーストリアのある小さな町に住んでいる金持ちのアイゼンシュタイン男爵が，友人の公証人ファルケ博士と仮装舞踏会に行きます。ファルケ博士は黒装束に黒い翼をつけた蝙蝠の扮装で大いに喝采をうけ，それに気をよくして酒を少しのみすごします。ファルケ博士はすっかり酔っぱらい，馬車の中で寝こんでしまいますが，アイゼンシュタインは博士を町の広場へそっと置き去りにします。

翌朝，目をさましたファルケ博士は蝙蝠の姿のままでいる自分に気がつきました。そして，町の人々から「こうもり博士」と笑いものにされます。くやしくてたまらないファルケ博士は，なんとか仇をとろうと企てるのでした。この，のんきな仇討ちが劇の中で繰り広げられるのです。

序曲は，劇中の印象的なメロディをつなぎ合わせたもので，とくにワルツは有名です。きっとお聴きになったことがあるでしょう。

◆円舞曲「ウィンの森の物語」……J. シュトラウス

円舞曲，すなわちワルツなんですが，シュトラウスの曲の場合，どうしても漢字の方でないと気分が出ないのは筆者だけでしょうか。

さて，ご存知とは思いますが，シュトラウスのワルツは社交場などの実用曲として書かれました。しかし，芸術的内容の高い曲も多く，演奏会用の曲目として，こんにちでもしばしば取り上げられております。それらには「青きドナウ」「南国のバラ」「酒，女，歌」「芸術家の生涯」などがあり，この「ウィンの森の物語」は「青きドナウ」に次いで有名です。

この曲は，題名の示すとおり，ウィン郊外の森の情景を表現しており，序奏，ワルツ5曲，コーダという構成になっております。

序奏　ワルツのリズムで初まり，次いで，ワルツⅡのメロディがワルツの起源とされているレントラーの形で出てきます。この部分は，本当はツィターという，ギターとハープのあいの子のような楽器で奏されることになっております。しかし，わが新響にはこの楽器の持ち合せがないので，弦楽合奏で代用いたします。

ワルツⅠ　ヘ長調。物語る感じの主旋律と，快活な副旋律。

ワルツⅡ　変ロ長調。主旋律は序奏のところに出てきました。以下，やや律動的な副旋律がつづきます。

ワルツⅢ　変ホ長調，三部形式。余談ですが，シュトラウスのワルツは，繰り返しがとても複雑なんです。かっこ1，かっこ2，その他いろんなマークが記入してあって，さてどこへ跳ぶか，奏者はひと思案する（ただし，止ってはいけない）のがつねです。



◇

P. チャイコフスキー

◇

ワルツⅣ　変ロ長調，二部形式。

ワルツⅤ　変ホ長調，三部形式。

コーダ　ワルツⅣをはじめとして，いろんな旋律を回想します。最後に，序奏の部分が出て全曲を終ります。

◆バレー音楽「眠りの森の美女」から

……P. チャイコフスキー

「眠りの森の美女」は，「白鳥の湖」や，「くるみ割り人形」とならぶ，チャイコフスキー（1840～1893年）の「三大バレー音楽」の一つで，これらの曲は単にチャイコフスキーの代表作というだけでなく，古典バレー音楽中の傑作とされています。これは，「シンデレラ」や「赤ずきん」などで有名なフランスの童話作家シャルル・ペローのおとぎ話の中におさめられている「眠りの森の美女」をもとに，振付師マリウス・プチパなどによりバレーとして完成されました。

序奏部分　時は17世紀，フロレスタン24世の治める国が舞台です。この王女さまには長い間，子供がありませんでしたが，ようやく王女が生れたため，たいへんな喜びようで，盛大な祝宴が開かれます。この宴には，名付親として6人の妖精が招待されました。悪賢いカラボッスだけは除外されていたのですが，ネズミのひく不気味な馬車でやってきて，王女はやがて指をさされて死ぬだろうと予言し，みんなを驚かせます。

しかし，やさしいリラの精の力で彼は追い払われ，死の代りに長い眠りにつき，ある王子の接吻で目覚めるだろうと予言します。

第1幕　それから16年後，美しく成人したオーロラ姫の誕生祝いの宴が開かれています。姫は，4人の王子からバラの贈物を受けます。

ところが，老婆に化けたカラボッスに，姫は針でささされ，倒れてしまいます。そこに現われたリラの精は，姫を寝かせ，さらに宮殿をすべて深い眠りに沈めます。

第2幕　それから100年後，デザイアという王子が森へ狩りにきて，そこでオーロラ姫の幻を見て，いっぺんに心をひかれます。そして，深い眠りの中にある宮殿へゆき，そこに眠っているオーロラ姫に接吻すると，姫の眠りは突如として解け，ふたたび輝かしい世界がもどってくるのです。

第3幕　王子とオーロラ姫はめでたく結ばれ，結婚の祝宴が開かれました。お祝いの踊りが次々と繰りひろげられるのです。

この幻想的なバレーから，今回は次の3曲を選びました。なお，曲順を多少，変えてあります。

1. **序曲とプロローグ――リラの精**……幻想的な序奏によって始まります。カラボッスを表わす力強いリズムと，やがて出てくる優雅なリラの精の旋律とが中心をなしており，この二つが巧みに争いを続けながら，森の中の宮殿をあざやかに描き出しています。

2. **ワルツ**……このワルツは全曲中，最も有名です。祝宴に招かれた村の娘たちが花かごを腕にかけ，片手に若者の手をとって踊る幻想的な曲です。

3. **アダージォ，パ・ダクシォン――バラのアダージォ**……オーロラ姫の踊りともいわれます。姫が4人の王子からバラをささげられて踊る，華やかな情景をご想像ください。はじめの部分で，ハープの効果的なカデンツァがはいります。

◆組曲「ミシシッピ」……グロフェ

組曲「大峡谷」をはじめとして，「夜のブロードウェイ」「メトロポリス」「ヘンリー・フォード」組曲「死の谷」組曲「ハリウッド」，1964年にニュー・ヨークで開催された世界博覧会のために作曲した組曲「世界博覧会」など，純アメリカ的な風物を扱かった作品で有名なファーディ・グロフェ（1892～）は，この組曲「ミシシッピ」を1925年に作曲しました。

彼は，第1作である「夜のブロードウェイ」を書き上げ，ちょうど，G. ガーシュインの「ラプソディ・イン・ブルー」のオーケストレーションを行なっているころでした。彼がピアニストと編曲の仕事をしていたポールホワイトマン楽団のホワイトマンに，この組曲を書くよう，すすめられたということです。この曲は1925年，カ

◇
C. ポ ー タ ー
◇



ーネギー・ホールで，ホワイマトン楽団により初演されました。

曲は，それぞれ標題をもった四つの楽章から編成されています。

1. 河の父（Father of Waters）

昔からインディアンの居住地域であった上流地域，ミシシッピ河の源を描いています。

ホルンが河の源の流れの雄大なさまを表わし，突如，激しいインディアンのリズムが現われ，また，河の流れのテーマにもどり，静かに楽章を閉じます。

2. ハックルベリ・フィン（Huckleberry Finn）

ミシシッピ河畔を舞台に展開される，有名なマーク・トウェンの小説の中に出てくる狩人たちや，悪党の少年が，非常にユーモラスに描かれています。

主題は，まずファゴットによって奏されます。Wind Whistle，ミュートをかけたトランペット，トロンボーンなどが効果的に使われています。

3. 想い出のルイジアナ（Old Creole Days）

ミシシッピ河をくだってきた，年老いたニグロのばあやの歌う子守歌です。ハープ，弦をバックに，イングリッシュ・ホルン，クラリネット，フリュートがメランコリックな子守歌を歌います。

4. マルディ・グラ（Mardi Gras）

ミシシッピ河口のニューオルリーンズは，デキシーランド・ジャズ発祥の地としてあまりにも有名です。このニューオルリーンズやパリでは，謝肉祭の最終日（懺悔火曜日）には特別のお祝いが催されるそうです。

グロフェは特有の華麗なオーケストレーションをもって，大謝肉祭の華やかで賑やかなようすをいきいきと描き出しています。そして，この雄大なミシシッピの音画集は，華々しく幕を閉じます。

☆　　☆

では，最後にグロフェ氏に登場して戴きましょう。

「私はよく人から，なぜ『大峡谷』のようなアメリカの風物を扱った曲を書くようになったのかと質問されます。そして，うれしいことに，その壮大な峡谷を実際に見た人は，本当によく書けているとほめてくださるのです。この言葉はつぎのことを表わしていると思います。すなわち，私がこの音楽を書いたのではない。これはわが祖国アメリカから生まれ出，歌い出てきたものだ，ということです。

この音楽はあなたの音楽です。私のものは最も厳密な意味で，私の名で登録してある版権だけにすぎません。この曲に現われてくる音，風景，感興は，われわれアメリカ人がだれでも感じているものです。私，グロフェとあなた方との違いは，私がそれを五線紙に書く方法を知っていたことだけなのです」。　（以上，西田克彦）

——第2部　ミュージカル名曲集——

ミュージカルが大流行しています。ブロードウェイ・ミュージカルの20ミリ映画化がどしどし上映され，そしてステージでは日本人キャスト，外人キャストで話題作が上演され，意欲的な新作が発表されております。ミュージカルは，日本人の生活の一部分になってしまったといってよいでしょう。

今回は，ブロードウェイ・ミュージカルのうち，とくにヒットした三つから，有名な曲を選び，演奏いたします。きっと，ご存知のメロディが出てくるはずです。

◆南太平洋 ……**R. ロジャース**

これは，ロジャースとハマースタイン二世が1949年に発表し1,925回ものロング・ランをつづけた大ヒット・ミュージカル・プレーです。わが国でも，オリジナル・キャスト盤，あるいは，ヒット・パレード・レコードなどで親しまれています。

物語は第二次大戦中，南太平洋のある島で起ったできごとを扱っていますが，舞台で激烈な戦闘シーンを再現せず，効果をあげている点が高く評価されました。とくに，オリジナル・キャストにメトロポリタンの歌劇歌手エツィオ・ピンザを起用（中年の農園主）し，名舞台女優メリー・マーチン（若くて気の強い志願看護婦）の恋



◇
R. ロジャース
◇

を中心に展開されます。土人女プラディ・メリーの歌うエキゾチックな「バリ・ハイ」，はじめて彼女と逢った夜の喜びを歌う「魅惑の宵」をはじめ，明るいワルツ調の「ワンダフル・ガイ」「春よりも若く」「ご婦人ほどよいものはない」などの傑作曲が含まれています。

◆カンカン ……C. ポーター

「カンカン」は，アメリカの代表的歌曲作家コール・ポーター作のミュージカルです。ポーターは「夜も昼も」，「ビギン・ザ・ビギン」，「アイ・ラヴ・パリ」などのポピュラー・ソングでおなじみのはずです。その「アイ・ラヴ・パリ」が「カンカン」の1曲なのです。

ポーターは大金持の家庭に生れ，祖父の遺産で9年間もパリに遊んだのち，ブロードウェイでつぎつぎにミュージカルを発表しました。1930年代のことで，「夜も昼も」や「ビギン・ザ・ビギン」は当時のナンバーです。

「カンカン」はずっとあと，戦後の1953年にブロードウェイで初演，3年間続演されたヒット作で，1960年には20世紀フォックスがシャーリー・マクレーン，フランク・シナトラ，モーリス・シュヴァリエ，ルイ・ジュールダン主演で70ミリ映画化，日本でも公開されました。

ポーターが青春をすごしたパリに，限りない追憶と愛着をこめた作品で，いかにもポーターらしい品のよい美しい曲がちりばめられています。

〔ミュージカル映画“カン・カン”の1シーン〕



お話は“カンカンはワイセツである”という禁止令を守らぬカフェに裁判所の判事たちが乗りこみ，逆に，カンカンの魅力のとりこになってしまう明るい内容です。

今夜，演奏するのは，ポーター自身が約10分の管弦楽曲に編曲したもので，陽気でダイナミックな「カンカン」にはじまり，カンカンのすばらしさを歌う「セ・マニフィク」，ワルツになって「アレヴザン」，有名な「アイ・ラヴ・パリ」をはじめ，楽しい「モンマルトル」，ワルツの「ネヴァー・ギヴ・エニシング・アウェイ」，フォックス・トロットの「アイ・アム・アイ・ラヴ」から，シナトラの持歌になった「ぼくは満足」とつづき，「カンカン」でフィナーレになります。　（日野　康一）

◆マイ・フェア・レディ ……F. レーウェ

「マイ・フェア・レディ」は「オクラホマ！」のロングラン記録を打ち破り，1956年から足かけ7年間2,717回の最高記録を打ちたてたミュージカル・プレーです。米本国だけでなく，イギリス，フランス，ドイツ，オーストラリアをはじめ，わが国でも上演され，いずれも大成功をおさめました。

作詞アラン・ジェイ・ラーナー，作曲フレデリック・レーウェのコンビは，これよりさき「ブリガドゥーン」(1947年)，「ペイント・ユア・ワゴン」(51年)を発表していましたが，この「マイ・フェア・レディ」によって，人気ミュージカル・チームの地位を確保しました。

内容は，イギリスの大文豪バーナード・ショウの戯曲「ピグマリオン」をミュージカル化したもので，舞台は1912年英京ロンドン。言語学者ヒギンズ博士が友人との賭けで，たまたま知り合った貧相な花売娘イライザを6カ月間に上流社会にふさわしい貴婦人に仕立てあげ，最後に2人は結ばれるという筋です。おなじみの「一晩中踊りあかして」「君住む街で」，また，めずらしくハバネラ風のリズムを取り入れた「スペインの雨」などの曲が親しまれています。

なお，1964年，オードリー・ヘップバーン，レックス・ハリソン主演で映画化されました。

フィルハーモニッシェ基準

早　川　正　昭

フィルハーモニーオーケストラとして鑑賞にあたいする限度はどのくらいか。また，それらは，どんな要素からなりたっているであろうか。

“フィルハーモニー”には権威がある

“フィルハーモニー”ということばは，字義どおりに解釈すると，「ハーモニーを愛する」という意味である。しかし，シンフォニー・オーケストラの別名としての意味で用いられ始めたのは，割りに新らしく，19世紀の中葉からだそうである。日本では，下手なオーケストラでも，よく，「何々フィルハーモニー」などと名前をつけているが，本来は「優れている」というニュアンスがあり，ドイツあたりでは，やたらと「何々フィル」とは名乗ることができないため，地方のオーケストラなどには，あまり用いていないようである。

先年，東大オーケストラがドイツに行ったとき，3カ所の批評に「東大オケは，フィルハーモニッシェ基準を越えている」と書かれた。実は，これは大変なほめ言葉であって，これを，そのまま受けとるならば，東大オーケストラは，プロの一流として通用するということになる。つまり，ドイツでも地方の3流のオーケストラ（プロ）などが名乗ることのできない，フィルハーモニーという称号を名乗れるだけの実力がある，という意味である。（われわれは，これを，一段下げて受けとり，「まあ，プロの二流というところだろう」と解釈しているのだが……）。

ドイツでは，ベルリン・フィルが超一流，あと，バイエルンとかリアス（RIAS）といった一流のオーケストラが10ぐらいあり，それらはもちろん，とても上手だ。しかし，その下のクラスになると，かなり下手だそうである。ある日本人留学生が，三流オーケストラにはいったところ，あまりひどいのでびっくりし，飛び出したという話もある。



◇

〔早川正昭氏〕

1934年生れ，1956年東大，1960年芸大作曲科卒。作曲を長谷川良夫，指揮を渡辺暁雄氏に師事。

1961年ヴィヴァルディ合奏団指揮。現職，同合奏団指揮者。

1964年，自作品で演奏会。東大オーケストラ指揮者として渡欧。

作品は，トロンボーン四重奏曲ほか多数。広島大学助教授。

◇

この基準はかなり主観的

ところで，本題の“フィルハーモニッシェ基準”というのは，具体的な条件があるわけではない。かなり主観的な判断によるものであるが，こういうことがいえるだろう。つまり，リズム的な縦の線がいつもぴったりそろっていること，和声的な縦の線が，いつも合っていることである。そして，そのうえ，音楽が流れていることなどが，最も基本的な意味において要求される。

バイエルン交響楽団の練習を見学した人の話では，クーベリックは，アインザッツの縦の線をそろえることと，各セクションの和音をきちんと合わせること，そして，バランスについて非常に時間をかけていたそうである。これは，私が東大オーケストラの練習で行なっていたのと同じやり方である。

オーケストラの音色というのは，個々の奏者の音色に関係するよりは，むしろ，リズムとハーモニーとバランスの問題である。アインザッツがそろわないと，バラバラに聞こえるし，かなりそろっていても，ブァーンという程度では完全でない。完全にそろったパーンという音が一番スッキリして美しい。もちろん，表現目的によっては，ブァーンという出方も用いるのだが……。音の出だしだけでなく，たとえば，二つのパートが三度の平行で旋律を奏するときなど，それぞれの音の変わり目が合っていると合っていないでは，たいへん美しさに差が出るものである。人間の耳は，0.06 秒以上のずれがあれば，二つの音としてずれて聞こえるが，それ以下のずれは，ずれとして聞こえず，音色の一部として，「ぼけて

る」「あいまいな」「スッキリしない」「重々しい」などの感じがその音に加わって聞こえるものなのである。

最も重要な要素は音程——和音

オーケストラの音色に，最も関係があるのが和音である。一人ずつがいくら良い音色で演奏しても，和音が合わなければオーケストラとしては美しくない。そして音程だけ合っていても，バランスが良くなければ美しくない。和音を合わせるには，最もたいせつな音——旋律か，低音か——に音程を合わせ，よくハモるようにするわけだが，しっかりした音程の人が少ないと，だれに合わせてよいかわからないという状況になる。

しっかりした音程の人の割合いが臨界値を越えると，他の人もそれを頼りに合わせられるようになり，和音が良くあうようになる。この臨界値は，まだ測定してないが，アマチュアオーケストラをこの域にまで訓練するのは，非常な根気がいる。とくに，学生オーケストラでは毎年人が入れ替わるので，なかなか大変だ。私が指導したオーケストラは，音色がきれいだ，とよくいわれる。ある評論家などは，よほど良い楽器ばかりそろえているのだろう，などといって失笑を買ったことさえある。

私の練習は，リズムと音程とバランスをそろえることに時間を多くとる。いろいろと非難もあったが，私はこの方法がまったく正しいことを，ヨーロッパで実証し得たと思っている。

音楽の表現については，馬鹿でなければ，それぞれが自覚しているはずだし，個性が強く，全体から見て統一がとれないところは，どんどん注文して統一をとり，あとは本番のインスピレーションにゆだねるのである。歌い方などを，練習の初期から，ある型にはめてしまって，生気のない演奏をするのは好きでない。アインザッツやリズムや和音をそろえるには，練習にいつも同じメンバーがそろうことが条件になる。お互いのくせをのみ込んで，どんな場合でも音程が合わせられるようになれば，しめたものである。

われわれは，神様ではないのだから，たまにはミスすることがある。どんなときでも，リズムや和音がくずれないで安定した演奏ができるようになったとき，“フィルハーモニッシェ基準”を越える素地ができたということになる。あとは，演奏する音楽にみんなが感動しているかどうかということが問題になるだろう。

基準に合わない演奏は逆効果

アマチュア・オーケストラが，学童等を対照にして，音楽教室などをやるのは有意義なことなのだが，そのオーケストラが，フィルハーモニッシェ基準をこえてないガチャガチャバンドでは，「オーケストラとはつまらないものだなあ」という逆効果を与えるおそれがある。

“フィルハーモニッシェ基準”を超えるには，たいへんな努力が必要だが，アマチュアだからといって，この努力を怠ってはいけない。私の手がけた東大オーケストラも，広島大オーケストラも，せっかく一時は，この基準をこえたのであるが，学園紛争のおかげで，それより下がってしまったようだ。一度こえたからといって，安心できないものである。

☆「新響」本年の活動——演奏記録と予定

① 1月15日(日) 港区教育委員会依頼演奏会，ベートーヴェン第5交響曲（日比谷公会堂)。

② 1月19日(日) TBS-TV 録画，ベートーヴェン第9交響曲第4楽章，東響と合同。

③ 2月2日(日) 茨城県石岡市へ演奏旅行，ベートーヴェン第5交響曲ほか。

④ 4月1日(月) 第18回定期演奏会，ショスタコーヴィチ第5交響曲ほか。

⑤ 5月5日(月) 水戸市で子供のための演奏会に出演。こどもの歌，ラデッキー行進曲ほか。

⑥ 7月17日(木) “鯨”主催，「合唱とオーケストラの夕べ」に出演，「眠りの森の美女」「アイーダの大行進曲」ほかを演奏。

⑦ 7月27日(日) 新交響楽協会3楽団合同演奏会，「ミシシッピ」などを演奏。

⑧ 8月4日(月) 新響サマーコンサート

⑨ 10月26日～11月4日 沖縄，九州一周演奏旅行。
10月26日，27日 沖縄
28日 熊本
29日 佐賀
30日 長崎
11月1日 大分
2日 福岡
3日 都城
4日 鹿児島
未完成，新世界，ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲ほか。

⑩ 12月21日(日) 「メサイア」特別演奏会

新響・次回演奏会予告

新響，“鯨”合同，年末特別演奏会

日　時　1969年12月21日（日）　午後7時

会　場　新宿，厚生年金会館大ホール

曲　目　オラトリオ「メサイア」……ヘンデル

演　奏　新交響楽団

合　唱　“鯨”

指　揮　芥川也寸志

新響の団員を募集しています

メンバー表を見てもわかるとおり，新響団員は，サラリーマン，学生，主婦などで構成され，音楽を職業としている者はおりません。

どなたでも，簡単なテストを受けて団員になることができます。お気軽に下記へ電話なさるか，または，直接，練習所へおいでください。

問合せ先　千代田区神田駿河台3の6　全電通会館（日音協気付け）
（国電お茶の水駅下車，ニコライ堂側の坂道をくだり，中央大学の反対側）

新交響楽協会　TEL.（253）9831

輸入楽譜　のことなら，どんな事でも御相談ください。
管弦楽，器楽曲譜面，沢山在庫しています。

アカデミア・ミュージック株式会社
文京区本郷2丁目26—11
TEL. 813—6751（代）　都電・本郷二丁目　地下鉄・本郷三丁目

パートから (No. 9) チェロ

〔Ⅰ〕

「チェロ [cello] (violon cello の略) ビオラより1オクターブ低い低音弦楽器。大型で，椅子にかけ両ひざの間に胴体を抱いて奏する。4弦で独奏・室内楽・管弦楽などに重用。セロ。」

広辞苑にはこのように記されているが，もう少し百科辞典的解説を加えさせていただこう。

ヴァイオリン族の起源は定説はないが，古くはエジプト，アッシリア時代の“キタラ”に端を発し，“レベック”，“リュート”，“リラ・ダ・ブラッチョ”等をへてヴィオール族とヴァイオリン族が誕生したとみられる。“ヴィオール”そのものが発展して“ヴィオラ”が生れ，“ヴィオローネ”が高音域に発達してチェロが生れ，ヴィオローネそのものはコントラバスとなった。だいたい1530年以降にヴァイオリン族が完成したとみてよいだろう。他に19世紀ごろまで使われたチェロ系の楽器としては，ヴィオロンチェロピッコロ，アルペジオーネ，チェローネ，ヴィオラ・ダ・ガンバがある。

大きさは，長さでヴァイオリンの2倍(120cm)，面積で4倍，体積で12倍。弓は18世紀，フランスのトゥールトが完成したもので，長さは73cm，重さは約75g，毛の数は200本である。また，ヴァイオリン，ヴィオラにはないエンドピンは19世紀なかばに発明されたもので，それまでは直接床においたり，下に台をあてがったりしていたという。女性がチェロを奏くようになったのも，このときからである。

〔Ⅱ〕

独奏楽器としてのチェロの発展はヴァイオリンより約2世紀おくれ，18世紀中頃イタリアのガブリエリが最初の独奏家とされている。この時期はおもにヴァイオリンとチェンバロの伴奏楽器として重用されたが，18世紀の中期に左親指の使用が考案されて高音域の演奏が可能になり，ヴィヴァルディ，ボッケリーニによってチェロは技巧的独奏楽器としての性格を与えられた。さらに J. S. バッハ，ハイドンによってチェロの性能は極限まで追求され，同時に弦楽四重奏でのチェロの地位も不動のものとなった。また，デュポーア(仏)，ロンベルク(独)により，運指法も系統化された。

カザルスはこれら従来の奏法を音楽の内容と要求に応じた科学的，合理的な現代奏法に飛躍完成させ，チェロをヴァイオリンと同等の地位に高め，古典楽器を復興し，ヴァイオリン曲を編曲演奏して現代チェロ曲の創造に測り知れない貢献をした。

〔Ⅲ〕

チェロの曲は，それでもヴァイオリンやピアノとくらべて格段に少ない。協奏曲を例にとれば，ボッケリーニ，ヴィヴァルディ，ハイドン，シューマン，ラロ，サン・サーンス，ドボルザーク，ハチャトリアンぐらいであり，ソナタ，組曲を加えても50曲を数えられる人はあまりないだろう。

変った曲としては，6弦の楽器アルペジオーネのために作られたシューベルトのソナタ，R. シュトラウスの交響詩「ドン・キホーテ」の独奏チェロ，コダイの無伴奏ソナタでC線とG線を半音低く調弦するなどであろうか。

〔Ⅳ〕

一方，オーケストラの中ではチェロは低音楽器であるとともに，旋律楽器であり，重要なパートである。

作曲家によってチェロの扱い方が異なるのは面白いが，ワーグナー，R. シュトラウスはチェロを重視し特に官能的表現力に秀れている。

モーツァルトなどはチェロが嫌いだったのではないかといわれており，そう思ってみると不自然な音形がよく目につく。

ベートーヴェンの四重奏では，他のパートと完全に同等の地位が与えられていて，一刻も気を抜くことができない。先年，来日したパリ音楽院オケが，ドビュッシーの“海”を演奏したとき，第1楽章で，チェロ群の Soli の生生しいというか，なまめかしいというか，そのあざやかな音色は，ここにチェロありと思わせた。

〔Ⅴ〕

話はとんで恐縮だが，アマチュアオケの上手，下手はチェロのいかんにかかっているともいえるだろう。弦楽器の和音の透明さ，旋律の歌い方はチェロの実力によって左右されるからである。音程が一番悪いのもチェロだし，ボリウムのないのもチェロ。チェロの旋律になったとき，そのオケ全体がなんと貧相にきこえることか。アマオケのリーダーは心してチェロ奏者を大事にすべし。チェロ奏者は実力を自覚すべし。

〔Ⅵ〕

チェロは初心者が比較的とっつきやすい。大学オケで一番初心者が多いパートはチェロであろう。一つには経験者が少ないということもあるが，半年か1年レッスンを受ければ古典なら曲まがりなりにも合奏に加わることができるからである。

他のパートも，チェロに対しては寛大である。しかし，それだけにチェロをやる人には熱心な人が多く，下手の横好きと言えば心ある人におこられるかもしれぬが，アマチュアオーケストラのリーダーには不思議とチェロをやる人が多い（私の論理から言えば不思議でも何でもない）。

〔Ⅶ〕

音楽の喜びは本来，鑑賞することより自ら音楽することにある。最近レジャーの多様化とやらで「みるレジャー」より「するレジャー」へ移っているそうだが，当然のなりゆきであろう。音楽においても，やれウィーンフィルだ，やれクライバーンだと大枚払って聞きにゆくのも結構だが（金がないのでひがんでる？），楽器をさわったことのない人もぜひ参加する音楽をお始めになったらいかがだろうか。フルートブームとかいうが，ひとりで楽しめるまでは時間がかかるし，合奏となれば最高度のテクニックが要求される。チェロが一番いいようだ。事実，年をとってから始めて結構楽しんでいる人を私はずいぶん知っている。

要は，みんなが何か楽器を使えて，小さいのや，大きいのや合奏グループ，オーケストラがたくさんできること。

こうした底辺に支えられた音楽文化こそ本物であり，ステレオと外来演奏家に依存している現実は何とかしなければならないし，お金がかかってしようがない。さあ，みなさん，楽器をもちましょう！ (太田雅夫)